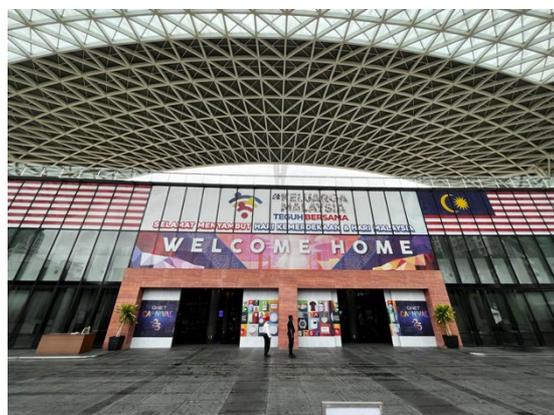


APHS, 2023 in Penang, Malaysia 参加報告

東京医科歯科大学 消化管外科学分野 谷岡 利朗

APHS2023 は、マレーシアのペナン島で 2023 年 9 月 21 日から 23 日までの 3 日間で行われました。ペナン島はマレー、中国、インドといった様々な文化の交差点として発展した歴史があります。特に北部のジョージタウンでは、様々な寺院が近隣に建立されており、多様性を肌で感じることができる独特の雰囲気があります。学会の 1 日目はペナン島の北端にある Gleneagles Hospital Penang の会議室で Pre-Congress Workshop が行われ、2 日目以降は南部にある Setia SPICE Convention Centre に会場を移し、様々なセッションが開催されました。



初日は朝から eTEP についての Super Video Masterclasses に参加しましたが、各国より参加したエキスパートの解説があまりに盛況であったため、人が入りきらずに途中で大きな会場に変更となるハプニングがありました。他会場では複数の施設をオンラインで接続し、ライブ手術が中継されていました。午後からは日本から持ち込んだ腹腔鏡トレーニングボックスを使っの Suturing Workshop の運営に参加し、国際交流を楽しむことが出来ました。2 日目以降はシンポジウムやオーラルの会場を渡り歩き、色々なセッションで勉強しましたが、やはり腹壁ヘルニアが盛況であること、またロボット手術についての関心が高いと感じました。また 1 つ印象深かったのは、ヘルニアの疫学についての発表があったことです。これは日本の学会ではあまりお目にかからない内容だと思います。会場では朝、昼、夕と食事が提供されていましたが、インド料理、マレー料理など様々な料理を楽しむことができ、これは（おそらく）ペナン島開催ならではのであったからではないでしょうか（そしてどれも美味しかった！）。



今回の学会で一番印象的だったのでは、日本からの（若い）参加者が非常に多かったことです。そして皆発表をしっかりとされていたのはもちろんですが、各国からの参加者もしっかりコミュニケーションを取っており、他疾患の学会ではあまり見られない光景だなと感じました。今後日本ヘルニア学会からの参加、情報発信が増えることが期待されます。APHS2024は10月にシンガポールで国際学会として開催されることが決まっております。来年は是非シンガポールでお会いしましょう。

最後になりましたが、今回は日本ヘルニア学会のScholarshipに応募し、このような貴重な機会を頂くことができました。国際委員会委員長の三澤健之先生、理事長の蜂須賀丈博先生をはじめ、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。